

I. 第13回復興計画推進会議議事録(要旨)

<検討テーマ：町で働く人を増やすためのアイデアの検討結果のまとめ>

◎検討のテーマ

町で働く人を増やすためのアイデアの検討

- ①南三陸町の起業の種
- ②南三陸町に今後必要な仕事
- ③町ぐるみ（住民、行政）でできること（提案書に向けた意見のまとめ）

◎検討結果

①南三陸町の起業の種

- ・南三陸町の起業の種について、次の発言がありました。
- ・芸術家に来てもらえるといいが、貸せる土地が少ないため、浸水域の土地を安く貸してアトリエとして利用してもらってはどうか。
- ・若い人に来てほしい。三陸道もできるため、大学の学部キャンパス(研究施設)があれば学生が来て、南三陸に住んでもらえるのではないかと。そうすれば、素晴らしい環境と自然の中で、素晴らしい人材育成につながるのではないかと。
- ・水産業が町の特色であり、景色だけでなく食の面で、南三陸に来ないと食べられない、牡蠣・ホタテ・ワカメなど季節ごとの旬の味を観光客に味わってもらう取組みを強化する。
- ・さらに、体験学習を活かして何かできないか。町のお祭りやイベントなどを活かして観光客を誘致することが考えられる。
- ・三陸道インター周辺の活用が必要ではないか。南三陸の顔として、皆が心身ともに癒される「もの・場所」を提供できるとよい。
- ・田畑はボランティアに頼るほどやることはあるが、若者の従事者が少なく、5年後、10年後には高齢者ばかりになってしまう。
- ・地元のお祭りがあっても、町外に出た人がわざわざ戻ってくることはない。魅力が足りないということであり、若者に戻って来てもらうためには、交通の便を良くしないとイケない。
- ・浜のマメを特産品として売れないか。
- ・森・里・海でそれぞれ活かされているものを、さらにつなげて考えると起業の種になるのではないかと。
- ・南三陸のようにいろいろなものがある町は少なく、自然を活かし、自然を愛し、守る人を育む地域づくりが起業の種になる。

・南三陸町の起業の種について、次の発言がありました。(その2)

・モノづくりと人づくりには、震災によって生まれた「恩返しの精神」が必要ではないか。

・インターができることにより、仙台などと近くなることや仙台港にも三陸道で直結されることをアピールする。
・志津川湾を観光地化する問題として、観光客のモラル低下がある。いかだをイタズラされることもあり、漁師は警戒している。漁師の生活にマイナスとならないように、話し合う場を多く持つことが必要である。

・小学生のアンケートは、地元にあるものを活かそうという発想がすばらしい。
・都会になくて南三陸にあるものを探してなりわいにする。
・交流人口を増やし、町の雇用を創出させるためには、「体験」と「食」を組み合わせる(鮭の遡上について学習した後にキラキラ丼を味わうツアーを企画するなど)など、ほかの業種と合わせることが効果的ではないか。

・地元の大工さんなど、後継者(後輩)がいないと嘆いている。技術が継承されない。
・熟練者や高齢者から若者に技術を伝承していく必要がある。
・復興に三陸杉を活かしていくため、三陸杉を加工してくれる業者が必要である。

・町ぐるみでアイデア出しを行い、耕作放棄地などを活用していく必要がある。

・旬の海産物が美味しく食べられる土地であるものの、加工品が少ない。生ものでなく、お土産になるような水産加工品があれば、対外的に南三陸の名前を広められる。
・簡単に海釣りを楽しめる地域をアピールできるよう、釣具のレンタルや、釣った魚を調理してくれる店があると良い。子供の視点を活かす土台づくりや支援への恩返しの精神で人づくり、ものづくりをする。

②南三陸町に今後必要な仕事

・南三陸町に今後必要な仕事について、次の発言がありました。

・高齢化に対応するため、現役を終えた人が働ける場や、出勤できなくても自宅で仕事ができるような環境が必要ではないか。

・大槌町では復興推進隊が入っている。総務省の地域おこし協力隊の制度もあり、南三陸にもそういった人たちが入らないか。

・南三陸町に今後必要な仕事について、次の発言がありました。(その2)

- ・田植えや稲刈り、農家が新しく始めた「ネギ栽培」など、一次産業は高齢者が担い手であることが多く、次の担い手がいないため誰かの手伝いを求めている。
- ・一次産業の担い手として、「何でも屋」のような若者の集団が必要と考えられ、若者が「何でも屋」をなりわいとする場合、生計を維持できるように何らかの補助や組織作りの支援も必要ではないか。
- ・若いパワー、元気のある人が季節に応じて手伝いをする代わりに、ベテランの農家からノウハウを教わることができ、後継者が育つ。

- ・水産業では若手の漁師がウニの養殖を始めた。漁師の間では跡取りがいないという問題が出ており、この先どう生き残るかなどについてしっかりと話し合う場を多く持つべき。
- ・そば、ネギなど単価の高いものを作ることや、ホヤなどの風評被害を克服することで、組織的に新たな販路を見つけることが必要である。

- ・三陸道ができれば、それを活かした新たに必要な仕事生まれるのではないか。
- ・買い物施設など皆が集まるところに、情報を提供してくれる場所があるとよい。

- ・田や畑はやることがいっぱいあるが、高齢化が進んで土地が空いている。
- ・若者で農業に従事したい人に対して、情報を紹介できる場所があるとよい。

- ・どこにどんな人材がいて、どこに仕事があるのかをつなぐ「お仕事銀行」のような窓口をつくとよい。
- ・知恵や経験を活かして、若い人が働けるように、皆が集まりやすい場所に窓口をつくり、見えやすくする必要がある。

- ・ポータルセンターやカフェ、集会所などに仕事の情報を掲示する町民版ハローワーク(愛称:タコの手センター)のようなものをつくり、お互いの手を貸し合うことができるとよい。

- ・漁業は定年がないため古い人が多く、新しい取り組みを受け入れるためには時間がかかる。若者の考えも通るように努力していく必要がある。

- ・商店街にミニデイサービスなどをつくり、高齢者が将棋や囲碁などで遊べるようにしてはどうか。また、地元の人が高齢者を送迎し、一日遊べる(過ごせる)仕組みがあると良い。
- ・デイサービスには、一般の町民も季節に応じて四季を味わえる場があるとよい。
- ・大人のための息抜きができる商業施設や娯楽施設があるとよい。

- ・漁業は定年がないため古い人が多く、新しい取り組みを受け入れるためには時間がかかる。若者の考えも通るように努力していく必要がある。

③町ぐるみ(住民、行政)でできること(提案書に向けた意見のまとめ)

・町ぐるみ(住民、行政)でできることについて、次の発言がありました。

- ・子育てしながら働ける環境や、人間らしい生活をしながら働ける環境の創出など、町が地の利を活かして政策的にUIターンを誘導していくことが必要ではないか。
- ・仮設住宅の空き家を、町民が活用できるようルールを変えていくことも必要ではないか。

- ・皆が恩返しの精神を持つことで、都会から来た人に町の良さを分かってもらうことや、心地よさを感じてもらえる。
- ・役場も心地よさを感じてもらえるようにするなど、町全体が同じ精神で取組むことで、福祉にもつながり、住みたくなる人が増えるのではないか。

- ・小学生のアンケート結果をみると、大人が思っている以上に子供たちは町の良さを理解している。大人にとってはあたりなのが「すばらしい」と思えることがすばらしい。
- ・町で働く人を増やすために町ぐるみでできることは、当たり前であることの中からすばらしさを見つけ、それを追求し、アピールすることが大切ではないか。具体には、南三陸町の住民が持つ「人あたりの良さ」や「おもてなしの心」を追求することで、町全体の魅力が上がり、この町で働きたい、この町に住んでみたいと思う人が出てくるのではないか。
- ・これからの取り組みにストーリーを持たせ、誰にでも理解してもらえるものを作って啓発することが大切ではないか。

2. 学識者・有識者委員からの助言

1) 稲葉委員

- ・小さな副業を積み重ねて、「八足のわらじ」を目指す考え方がある。自分で考えられない人が考えやすいように、お金に変えられる話を日常的にできるようになるとよい。たとえば、土日だけ竿を10本持って3時間1000円で貸すなど、できることはたくさんあるのではないか。
- ・町が必要としていることや、個人がやりたいことが仕事につながるとよい。様々な仕事をしている人に焦点を当てることも考えられる。

2) 宮原委員長

- ・本日は、すぐにできることもアイデアとして出たので是非実現させてほしい。
- ・町民と起業を考えている人の交流の場となるカフェがあるとよい。起業する人や特定の業種を支援することも必要ではないか。
- ・たとえば、ICそばに借地して、温浴施設をつくり、家族みんなで楽しめるような施設があってもよい。
- ・皆が心地よく、ゆったりできる施策に結び付くような提案をした方がよい。

《参考》

志津川小学校5年生へのアンケート調査結果

3つのテーマから自由記述

- ① 「自分が勝手に思う、志津川のよいところ」
- ② 「自分なら、こう変える！！」
- ③ 「もっと活気のある町にしたい！」

- ◇ 観洋からの景色がすばらしい。
- ◇ 観光できる場所を増やし、無料の送迎バスを運行させる。
- ◇ 有名なお店をつくる。でも、自然はそのままに。
- ◇ 志津川の取組を住んでいる人にも、よその人にも広める。
- ◇ 秘密基地をつくる場所があって、おもしろい。
- ◇ 月一で、何か同じことをするイベントをつくる。
- ◇ 映画館やおもしろい店をつくる。
- ◇ ショッピングモールやテーマパークをつくる。
- ◇ 志津川産のおいしいスイーツをつくる。
- ◇ 「ゆるキャラ」をもっとつくる。
- ◇ 有名人をたくさんまねく。
- ◇ 遊園地や水族館をつくる。
- ◇ オクトパスくんをもっとメジャーにする。個性を出す。
- ◇ 沼田で夏にホテルが見れる場所があり、とても綺麗。
- ◇ よそ子どもたちをたくさん呼ぶ。地元の子どもたちと一緒に町を歩く。
- ◇ 荒島の裏は魚がいっぱい。
- ◇ 高校の桜の木の下でシートを敷いてお弁当を食べると気持ちがいい。
- ◇ 中学校から見る旭ヶ丘の夕日がきれい。
- ◇ 海のもの以外の名産をつくる。
- ◇ どこよりも〇〇なものをつくる。もしくは、「あえて〇〇」なものを。
- ◇ ゆうしんどうのお菓子はおいしい。
- ◇ オクトパスくんがしゃべる。パワーアップ。謎をつくる。
- ◇ 入谷の神社から見える松の木が奇麗。
- ◇ 仕事をできる場所をたくさんつくる。いろんな会社に来てもらう。
- ◇ 船の体験ができるようにする。
- ◇ 都会に仲の良い町をつくり、交流する。
- ◇ 志津川の伝統的な文化をPRする。
- ◇ 展望台をつくる。
- ◇ スタンプラリーなどのイベントを何度も開催する。
- ◇ 自然をもっとPRし、高齢者が暮らせるような町づくりをする。
- ◇ 美しい自然と便利なお店が行き来できるようにする。
- ◇ 森の公園をつくる。
- ◇ 奇麗な町づくり。芸術家に来てもらう。
- ◇ 子どもたちが利用できるバスをつくる。
- ◇ 釣り、マリンスポーツをPRする。気球やハンググライダーもいいはず。